

保健体育科学習指導案

学 級 : 3年2組 31人

場 所 : 体 育 館

指導者 : 教諭 永野 麻理

1 単元名 ダンス（創作ダンス）

2 単元について

(1) 教材観

ア 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

イ 感じを込めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えて表現や踊りを通じた交流ができるようにする運動である。

ウ ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成されている。イメージを捉えた表現や踊りを通して交流を深め、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動である。

エ ダンスはリズムカルな全身運動であり、ダンスを継続することで、柔軟性、平衡性、筋持久力などの動きに関連して高められる運動である。

オ 仲間と協力して、動きを合わせて踊ったり、イメージを捉えて表現できたりしたときに楽しいと感じる運動である。

カ リズムに乗って精一杯体を動かしたり、互いに表現を認め合ったりして学習することで、互いの運動意欲が高まる運動である。

キ うまく表現できなかつたり、人前で踊ることが恥ずかしいと感じたりして気持ちが消極的になると楽しさを感じない運動である。

(2) 生徒観

ア 実態調査【調査日：9月10日、調査対象31人（回答数29人・未実施2人）】

1	体育の授業は「好き」ですか。（ はい 28人 いいえ 1人 ）
2	これまでの体育の授業で、「できなかったことができるようになった。」ことはありますか。 （ はい 26人 いいえ 3人 ） 「はい」と答えた人は、どのようにしてできるようになりましたか。（複数回答） ・ 自分で考え、何度も繰り返し練習した。（17人） ・ 先生や友達にアドバイスをもらった。（15人） ・ 手本となるもの（本や映像）を真似した。（4人） 「いいえ」と答えた人は、どうしてできるようにならなかったと思いますか。 ・ 何度練習しても思うように体が動かせなかったため、途中で諦めたから。（2人） ・ どのように体を動かしたらいいか、行い方がわからなかったから。（1人）
3	「友達にアドバイスをすること。」は得意ですか。 （ 得意 1人 どちらかといえば得意 13人 どちらかというと苦手 13人 苦手 2人 ） 「どちらかといえば苦手」・「苦手」と答えた人は、なぜですか。 ・ アドバイスの仕方がわからない。（11人） ・ 上手に伝えられない。（2人） ・ 自分ができないから。（2人）

4	アドバイスするときどのような方法を使いますか。(複数選択回答)	
	・ 「〇〇だから△△したほうがいいよ」と理由を付けて改善方法を伝える。	(18 人)
	・ 補助をしたり、一緒に動いたりする。	(14 人)
	・ 「もっと〇〇したほうがいいよ」改善方法だけを伝える。	(10 人)
	・ 実際にやってみせる。	(9 人)
	・ 「〇〇ができていないんだよ」出来ていないところだけを伝える。	(2 人)
5	ダンス(音楽に合わせて体を動かすこと)は「好き」ですか。 (好き 11人 どちらかといえば好き 5人 どちらかという嫌い 12人 嫌い 1人) 「どちらかといえば嫌い」・「嫌い」と答えた人は、なぜですか。(複数回答)	
	・ 表現の方法がわからない・難しい。	(12 人)
	・ 恥ずかしい。	(5 人)
	・ イメージがわからない。	(3 人)
	・ ダンスのおもしろさが分らない。	(1 人)
6	創作ダンスの授業で「あなたが望むこと」はどんなことですか。(複数選択回答)	
	・ 友達と協力するなどコミュニケーションの力を高めたい。	(19 人)
	・ 思いっきり身体を動かし、体力を高めたい。	(18 人)
	・ 色々な練習に興味をもち、積極的に取り組みたい。	(9 人)
	・ 創作ダンスに必要なイメージや表現の仕方を身に付けたい。	(4 人)
	・ ダンスに関係する知識を学びたい。	(3 人)

イ 考察

実態調査より、体育の授業について、ほとんどの生徒が「好き」と答えた。また、これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」と答えた生徒も多くいた。その理由として、自分で考え、何度も繰り返し練習したり、教師や友達からのアドバイスをもらったりしたことが挙げられる。さらに、アドバイスの方法では、理由を付けて改善方法を伝える生徒が最も多く、補助をしたり、一緒に動いたりする生徒も次に多かった。これは、生徒にとって、相手ができるようになるためにどのようにすればよいかを肯定的に伝え、一緒に動くことができたり、現在までの授業で、インターアクションの充実や、「アドバイス学習」の機会を意図的に設定し、取り組ませてきたからではないかと考えられる。

今後の課題としては、友達へアドバイスすることに苦手意識をもっている生徒が約半数いることが分かった。その理由として、「アドバイスの仕方がわからない」、「上手に伝えられない」などが挙げられた。これは、技術が十分に身に付いておらず、運動の行い方のポイントに気付いていないからだと考えられる。次に、ダンス(音楽に合わせて体を動かすこと)を「どちらかという嫌い」・「嫌い」と答えている生徒が約半数近くいることが分かった。その理由として、「表現の方法がわからない・難しい」、「恥ずかしい」などが挙げられた。これは、イメージを捉えて表現した経験が少なかったり、肯定的な人間関係がつくられていなかったりしたためではないかと考えられる。

以上のことから、単元の指導計画では、前半に、多様なテーマからイメージを捉え、思い浮かぶ特徴的な動きを即興的に表現させ、後半に、仲間と協力して、一番表現したい主要場面を緩急強弱のある動きや空間の使い方など、変化を付けた「ひと流れの動き」で表現させたい。さらに、この主要場面に、はじめとおわりを付けた簡単な作品にまとめて発表させ、グループの発想や動きのよさを互いに評価させたい。

本時の授業では、導入では、ドリルタイムにエアロビクスを組み入れ、その中に緩急強弱のある動きや空間を使う動き、ペアでイメージを即興的に表現する活動をさせる。展開では、「論理的思考モデル」を積極的に活用させる話し合いタイムⅡを組み入れ、自分なりの結論を導き出させたい。終末では、発問により学習目標に対応したまとめをさせ、次時の学習への見通しをもたせたい。

(3) 指導観

ア 知識・技能の活用を図る学習指導

(7) 「論理的思考モデル」を活用した話し合いタイムの学び方の工夫

根拠を基に筋道を立てて表現させるために「論理的思考モデル」を積極的に活用させる「話し合いタイムⅡ」を組み入れる。(教科紀要P50.(3)ーアー(ア)参照)

(4) 論理的思考を促す学習資料の作成と提示の工夫

論理的に考え、活動するために様々な学習資料を作成し、活用させる。

- チャレンジタイムの映像から現状を把握させ、課題に気付かせるために、分析カードを活用させる。(教科紀要P51.図4参照)
- 今までの学習で身に付けた技術や表現の仕方をより確実に理解させるために技術カードを提示する。(教科紀要P51.図5参照)
- 自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫を認識し、次時の授業で再確認させるために、個人カードを活用させる。(教科紀要P51.図6参照)

イ 「判断基準」に基づく補充・深化指導

(7) 積極的なフィードバックの工夫

積極的に生徒とふれあい、褒めたり、励ましたりするなどの肯定的・矯正的かつ具体的なフィードバックを行う。

(4) 思考・判断を促す発問の工夫

根拠を基に筋道を立てて課題解決に取り組めるような発問計画を作成し、実践する。

3 単元の指導目標

- 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができるようにする。 [技能]
- 創作ダンスに自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 [態度]
- 創作ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 [知識、思考・判断]

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
① 健康・安全を確保し、自主的にダンスの学習に取り組もうとしている。 ② 互いの違いやよさを認め合おうとしている。 ③ 自己の責任を果たそうとし、互いに教え合おうとしている。	① 表したいテーマにふさわしいイメージを捉えた表現の仕方を選んでいる。 ② ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付け、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ③ 発表や仲間との交流の場面で、互いの違いやよさを指摘している。 ④ ダンスを継続して楽しむために、自己に適した関わり方を見付けている。	① 表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現することができる。 ② 「はじめ～なか～おわり」の構成で、簡単な作品にまとめ踊ることができる。	① ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ② ダンスに関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ③ 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

(2) 指導と評価の計画

時	指導内容	評価規準
1	<p>ねらいⅠ 創作ダンスの特徴と単元の学習内容を理解し、見通しをもたせる。</p> <p>1 創作ダンスの特徴や表現の仕方、学習の流れを理解させる。 2 参考となる作品の映像でイメージを膨らませる。 3 「論理的思考モデル」の構成やそれを活用した話し合いタイムの学び方を確認させる。 4 スムーズに主運動へつなげるための体づくり運動や基本的な動きを身に付けるためのドリルタイムについて理解させる。</p>	<p>アー① エー①</p>
2	<p>ねらいⅡ 多様なテーマからイメージを捉え、思い浮かぶ特徴的な動きを即興的に表現させる。</p>	アー③
3	<p>学習するテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生活や日常動作（出会いと別れ、街の風景） ・ 対極の動きの連続（ねじる－回る－見る） ・ 多様な感じ（静かな、落ち着いた、重々しい、力強い） ・ 群（集団）の動き（大回り－小回り、迷路） ・ はこびとストーリー（起承転結、物語） 	アー②
4	<p>1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。 2 表現したいイメージを捉えやすくなるようにさせる。 3 イメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現させる。</p>	エー②
5	<p>ねらいⅢ 既習のテーマから、自分たちの好きなテーマを選択し、一番表現したい主要場面を変化を付けた「ひと流れの動き」で表現させる。</p>	イー①
6	<p>1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。</p>	ウー① エー③
7 (本時)	<p>2 テーマにふさわしい個や群の構成で、一番表現したい主要場面動を創る。 3 仲間とともに変化を付けた「ひと流れの動き」で表現させる。</p>	イー② イー③
8	<p>ねらいⅣ 主要場面にはじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめさせる。</p>	アー③ エー③
9	<p>1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。 2 仲間とともに主要場面にはじめとおわりを付けさせる。 3 よりよい作品になるように、踊り込みをさせる。</p>	ウー② エー①
10	<p>ねらいⅤ 作品を発表させるとともに、グループの発想や動きのよさを互いに評価させる。</p> <p>1 仲間や他のグループの動きを見せ合うことで交流させる。 2 互いの違いやよさを認め合わせ、仲間を称賛させる。</p>	イー③ イー④ ウー②

5 既習事項との関連を踏まえた「判断基準」

創作ダンスでは、第1・2学年において、基礎的な知識及び技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫できるように指導してきた。自分の興味や関心に合ったテーマを設定し、イメージを捉えた表現の仕方を選択したり、グループの課題に応じた練習方法を選択したりするなどの活動を行わせてきた。第3学年では、これまでの活動に加えて、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように指導したい。

既習の単元名 「ダンス（創作ダンス）」（第2学年）	本時の単元名 「ダンス（創作ダンス）」（第3学年）
評価規準	
[運動についての思考・判断] ○ グループの課題を見付け、課題に応じた表現の仕方を選んでいる。	[運動についての思考・判断] ○ グループで選択した表現の仕方から課題を見付け、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
評価の場面	
○ 展開時における話し合いタイムⅡの場面	○ 展開時における話し合いタイムⅡの場面
評価の対象	
○ 話し合いタイムⅡにおける発言内容 ○ 学習カードへの記述内容	○ 話し合いタイムⅡにおける発言内容 ○ 学習カードへの記述内容
判断の要素	
ア テーマにふさわしいイメージを捉えた表現の仕方 イ 課題把握 ウ 課題に応じて根拠をもって表現の仕方の選択	ア テーマにふさわしいイメージを捉えた表現の仕方 イ 課題把握 ウ 課題に応じて根拠を基にした表現の仕方の選択 エ 自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫
判断基準B	
ア テーマにふさわしいイメージを捉えた表現の仕方から、他者の動きの課題に気付き、指摘したり、助言したりしている。 イ 表したいテーマを基にイメージを捉えた動きを、互いの違いやよさを指摘している。 ウ 課題に応じて根拠をもって表現の仕方を選んでいく。	ア テーマにふさわしいイメージを捉えた表現の仕方から、他者の動きの課題に気付き、指摘したり、助言したりしている。 イ 表したいテーマを基にイメージを捉えた動きになっているか、互いの違いやよさを指摘している。 ウ 課題に応じて根拠を基にした表現の仕方を選んでいく。 エ 自己の課題を見付け、課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
【予想される生徒の表現例】 ○ 「競走」のテーマから、「ゴール付近で接戦している」イメージが分かりづらいから、もっと大きくスローモーションで表現してみよう。 ○ 「風」の「激しい様子」をもっと出すために、全員で足踏みを合わせながら前に進んで表現してみよう。	【予想される生徒の表現例】 ○ 「台風」のテーマから「たくさんの物を壊したり、吹き飛ばしたりするような激しい様子」をイメージしたけれど、 <u>みんなただ回っているだけでは、イメージが伝わりにくいから、台風の激しさはユニゾンでみんなが一斉に回ったり、回りながら前方に動いたり、カノンを使ってタイミングをずらして左右に飛ばされたりするような表現を入れてみよう。私は、屋根がパタパタとなって飛ばされる様子を入れてみる。</u> ※ アイウエは、判断基準Bを表している。
判断基準A	
(判断基準Bに加えて) ○ グループの課題に応じて根拠をもって表現の仕方を工夫することができる。	(判断基準Bに加えて) ○ グループの課題に応じて、自他の違いやよさを具体的かつ的確に指摘している。

6 本時の実際 (7/10)

(1) 単元名 「ダンス（創作ダンス）」

(2) 学習目標

- 表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて主要場面を「ひと流れの動き」にすることができるようにする。 [技能]
- 創作ダンスに自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることや、健康・安全を確保することができるようにする。 [態度]
- 創作ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方を理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 [知識, 思考・判断]

(3) 既習事項との関連を踏まえた指導

ア 知識・技能の活用を図る学習指導

(7) 「論理的思考モデル」を活用した話し合いタイムの学び方の工夫

話し合いタイムⅡで、「論理的思考モデル」を積極的に活用できるよう指導の充実を図る。具体的には、まず、チャレンジタイムの映像を基に、技術カードを活用することで根拠をもたせた課題に気付かせる。その課題解決の方法を思考スキルである比較（共通点や相違点は何か）、批判（本当にそれでいいのか）、関連（何と関わっているのだろうか）を使って、選択（自己決定）できるようにする。

(4) 論理的思考を促す学習資料の作成と提示の工夫

主に話し合いタイムⅡで、活用させる論理的思考を促す学習資料を作成する。具体的には、チャレンジタイムの映像から気付いたり、感じたりしたことから見付けた課題や話し合いより選択した表現の仕方を記入できる分析カードを作成し、活用させる。また、現在まで学習して身に付けた技術や表現の仕方を図示したものに、名称や動きの解説等の文章表現を付けた技術カードを作成し、提示する。さらに、テーマにふさわしいイメージを捉えたよりよい表現の仕方を選択できるように工夫する。そして、自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫を認識し、次時の授業で再確認できる個人カードを作成し、活用させる。

イ 「判断基準」に基づく補充・深化指導

(7) 積極的なフィードバックの工夫

肯定的・矯正的かつ具体的フィードバックを中心に教師があらゆる場面で積極的に関わる。具体的には、判断基準Bに到達していない生徒には、まず、称賛したり、励ましたりしながら意欲を高める。そして、個々の状況に応じて、適切で具体的な指導や助言をしたり、心（イメージ）に残る示範をしたりする。さらに、生徒同士が、個に応じて学び合い高め合う「アドバイス学習」を更に充実させる指導の工夫を図る。また、判断基準Bに到達した生徒には、肯定的・矯正的かつ具体的フィードバックをし、生徒が更に考えを深め、的確に指摘できるような指導の充実を図る。

(4) 思考・判断を促す発問の工夫

生徒の思考・判断を促すために、場面に応じた発問計画を作成し、実践する。まず、発問をつくる際には、発問づくりの原則5や発問の機能別分類（研究紀要第46号・P51参照）を基にする。さらに、判断基準Bや予想される生徒の表現例から生徒の課題を予測し、課題に応じた解決方法を考えさせる発問をつくる。場面に応じた発問を基に、判断基準Bに到達していない生徒には、自己やグループの課題に気付かせたり、課題に応じたよりよい表現の仕方を選ばせたり、課題解決のために自己の運動の取り組み方の工夫をさせたりする発問をする。また、判断基準Bに到達した生徒には、自他やグループの違いやよさを具体的かつ的確に指摘できるような発問をする。

(4) 授業の展開

[] : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導
導入	15分	一斉	1 学習の準備や安全点検をする。 2 整列, あいさつ, 健康観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> 用具や練習場所の安全確認を行う。 出欠・健康状態の把握, 見学者へ指示をする。 使用する部位を意識しながら行わせる。 今までに学習した動きを意識させながら行わせる。 	ア-① 既習の個や群, 緩急強弱のある動きや空間の使い方を再確認させる。
		個人・ペア	3 類似の運動をする(ドリルタイム)。 <ul style="list-style-type: none"> ストレッチ リーダーに続け エアロビクス(イメージを即興的に表現する活動等を組み入れる。) 		
		一斉	4 学習目標, 学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イメージを捉え, 変化を付けた「ひと流れの動き」で表現することを楽しもう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標, 学習の流れを理解させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">変化を付けた「ひと流れの動き」にするためにはどうしたらいいですか。</div>	
展開	10分	グループ	5 話し合いタイムⅠを行う。 <ul style="list-style-type: none"> テーマや前時に選択した表現の仕方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループのテーマや, 選択した表現の仕方を確認させる。 	ア-⑦ 「論理的思考モデル」を活用し, 話し合わせる。 ア-① 分析カードや技術カード, 個人カードを活用させ, 話し合わせる。 イ-⑦ 称賛や激励などの言葉掛けをする。 イ-① どのような課題から表現の仕方を選択したかを発問により確認する。
			6 グループごとに創作を行う。 <ul style="list-style-type: none"> イメージを明確にし, 創作を行う。 これまでに学習した動きを適用する。 具体的に捉えたイメージを伝え, 教師や仲間に動きを見せ, 助言をもらう。 イメージを捉え, 変化を付けた「ひと流れの動き」になっているか指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問からグループのテーマを確認し, 課題に応じた表現の仕方が選択できているか確認する。 仲間の動きを見て, 指摘や助言をしているか確認する。 変化を付けた「ひと流れの動き」になっているか確認する。 	
	6分	ルール	7 チャレンジタイムⅠを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 創作した「ひと流れの動き」を撮影する。 1グループが発表し, 互いに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを使用して撮影しているか確認する。 参考となるグループに発表させ, 互いに評価させる。 	
	7分	グループ	8 話し合いタイムⅡを行う。 <ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムⅠの映像を確認する。 グループの課題を見付け, 課題に応じた表現の仕方を選択する。 自己の課題を見付け, 運動の取り組み方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムⅠの映像と分析カードを活用させ, 現状を把握し, 課題を見付けさせる。 技術カードを提示し, 既習事項との関連を踏まえて, 比較, 批判, 関連を用いて考えているか確認する。 個人カードを活用させ, 自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫を認識させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">台風が通過する時はどんな気持ちだろう。どのように表現できるのだろう。</div>	
	6分		9 チャレンジタイムⅡを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 創作した「ひと流れの動き」を音楽合わせて発表し, 互いに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに発表を行い, 評価しているか確認する。 	
終末	6分	一斉	10 学習の評価・反省をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">変化を付けた「ひと流れの動き」で表現するとは, <ul style="list-style-type: none"> ユニゾンからカノンのように動くタイミングに違いのある表現を組み合わせる。 列や円などの空間の使い方に変化のある動きで表現する。 緩急や強弱のある動きで表現する。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">変化を付けた「ひと流れの動き」で表現するためにはどのような方法がありましたか。</div>	イ-① 学習目標に対応したまとめをさせる発問をする。
			11 次時の学習内容について確認する。 12 整理運動をする。 13 健康観察, 後始末, あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習の見通しをもたせる。 健康状態を把握する。 後始末を指示し, 確認する。 	